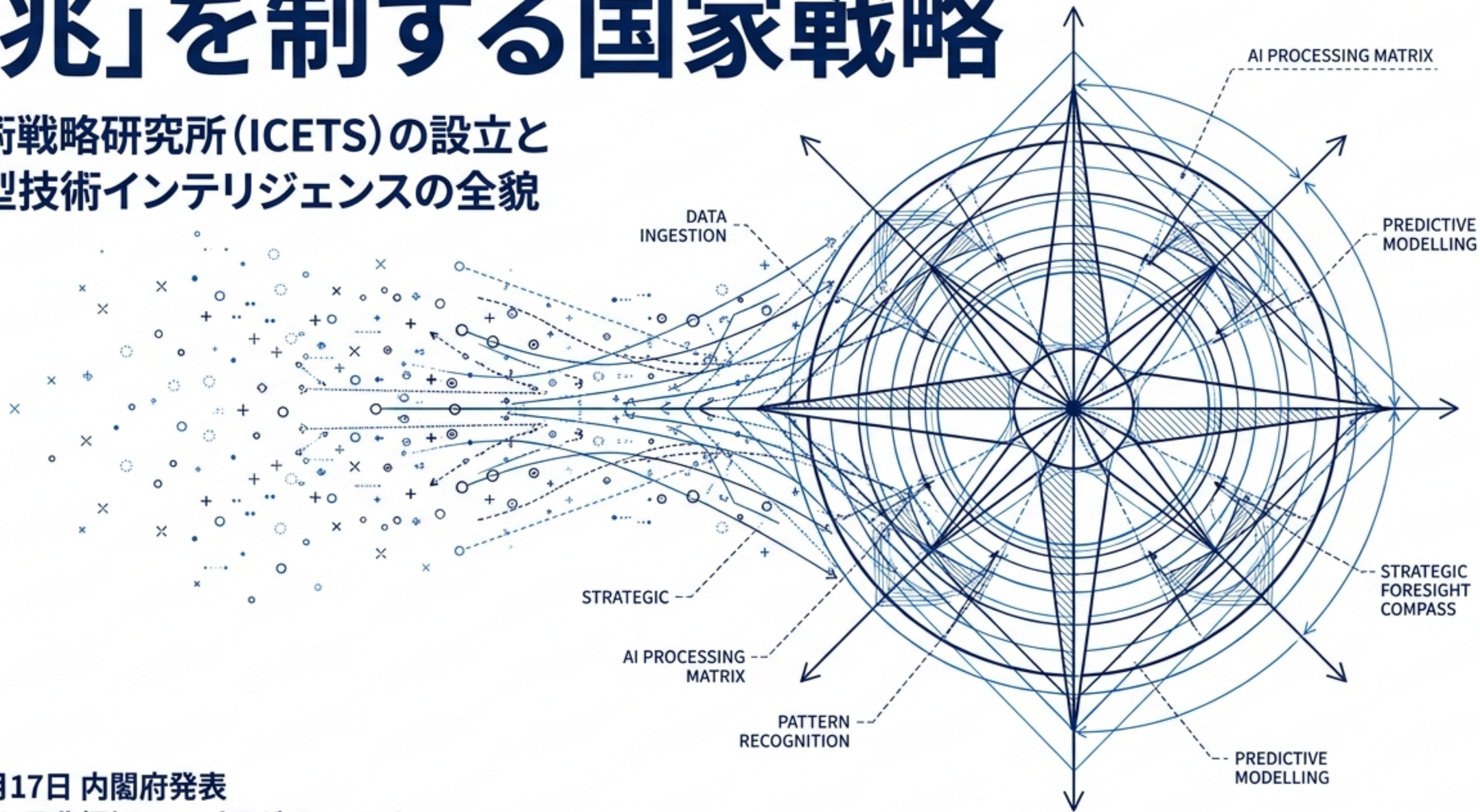
「予兆」を制する国家戦略

重要技術戦略研究所（ICETS）の設立と AI駆動型技術インテリジェンスの全貌



2026年11月17日 内閣府発表
事後追跡から予兆探知へのパラダイムシフト

Gemini Notebook

インテリジェンスの進化：事後追跡からAI駆動の「予兆探知」へ

	従来の公的動向把握（PAST）	ICETSのAI予兆分析（FUTURE）
対象データ	査読済み論文、 公開特許（事後指標）	予算公募、プレプリント、求人、 調達など5種の上流データ
分析手法	人手中心の公開情報収集	AI大規模データ横断解析 ＋ 専門家の脅威シナリオ分析
目的・出力	技術動向の事後的な確認	将来のチョークポイント特定と OCA（自国保有・連携・獲得） 戦略の動的進化

Gemini Notebook

ICETS Organization Dashboard：機動性と専門性を両立する組織設計

基本情報

- 略称: ICETS
- 設立: 2026年11月17日正式発表
- 所在地: 霞が関ビルディング36階
- 初期体制：10人

トップ人事（産業界と政策実務の融合）

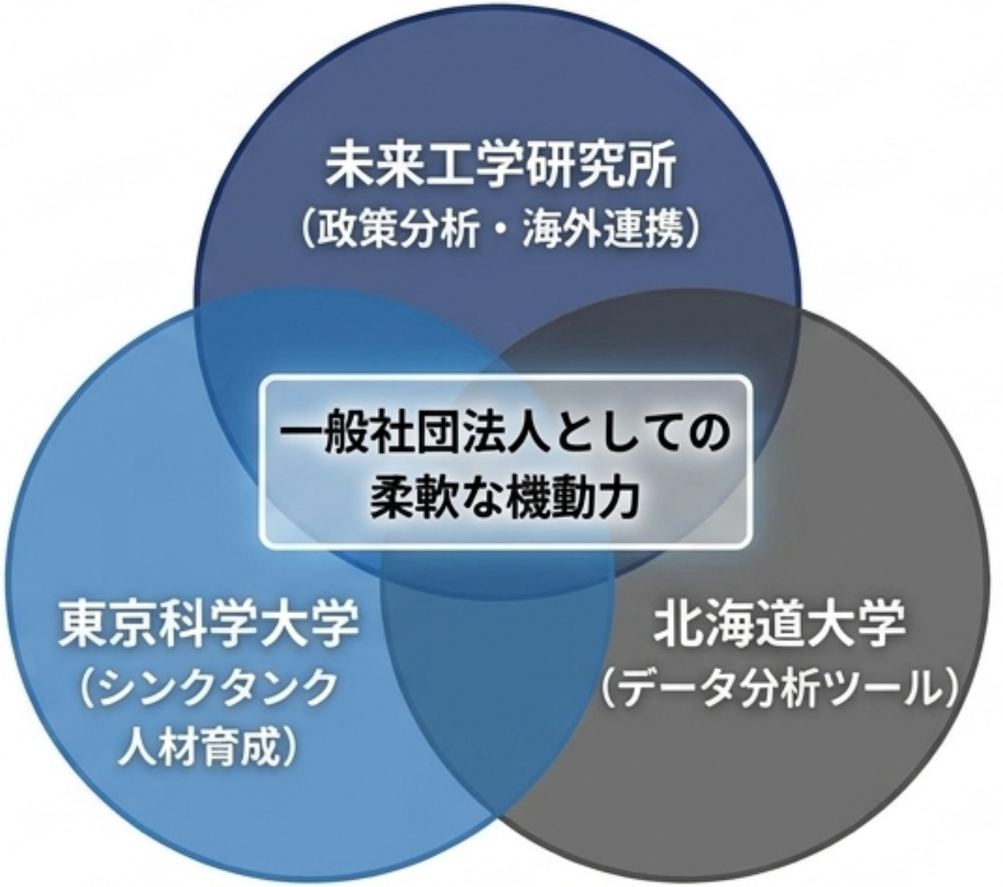


理事長：小川啓之
（コマツ取締役会長・サプライチェーン実務）



所長：中山智弘
（元JST-CRDS企画運営室長・元素戦略PO）

設立準備・運営母体



Gemini Notebook

ガバナンスと財務モデル：「二階建て予算」による自律性と柔軟性



一般社団法人（民間）の採用により、
国際水準の給与体系と産学官の
産学官の「回転ドア」を実現。
単なる政府の下請け化を防止。

恒常的な自主事業を支える土台

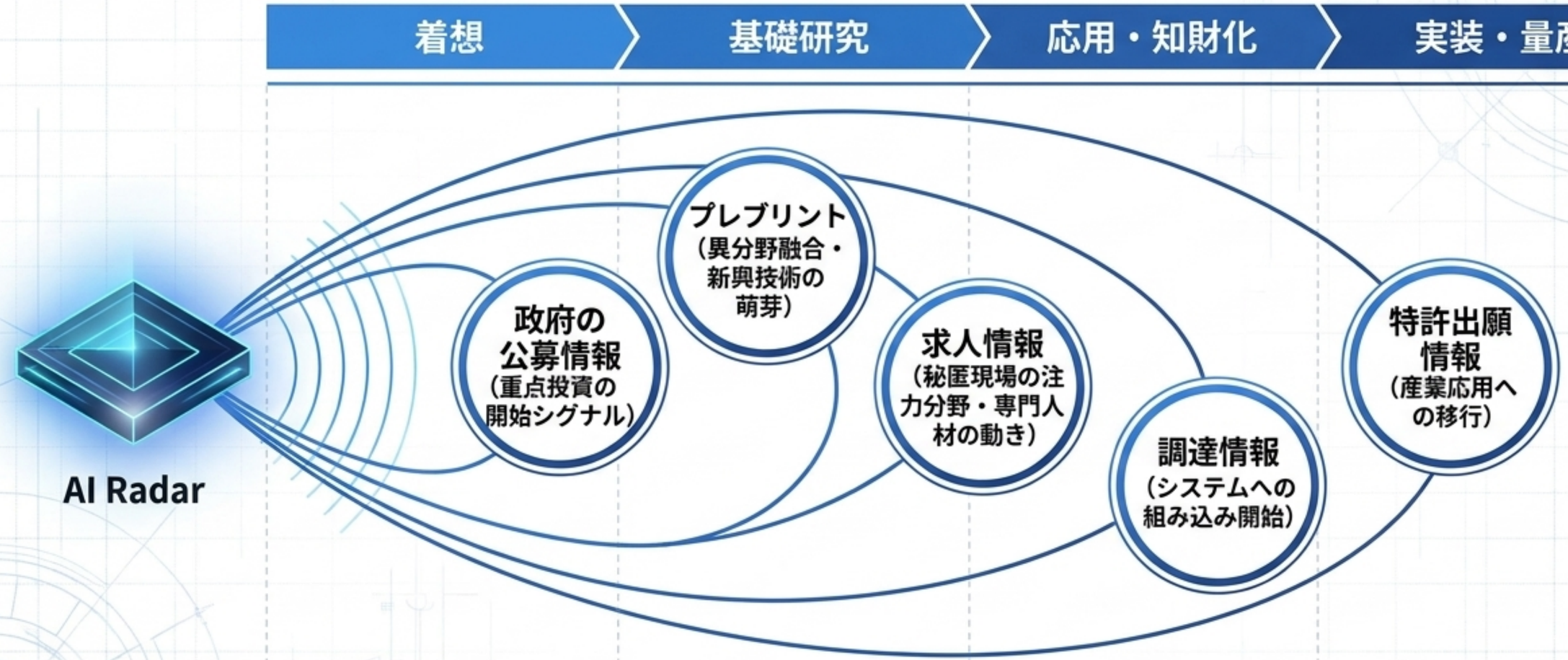
Gemini Notebook

従来手法の限界：論文や特許が公開された時、勝負はすでに決まっている



Gemini Notebook

The Predictive Radar：AI解析が捉える上流5種のシグナル



網羅的なデータ収集により、研究開発から実装に至る各段階の「死角」を相互補完する

Gemini Notebook

Choke Pointの特定：マクロな領域から「システムの成立を握る急所」を抽出

膨大なAI収集データ
（マクロな技術トレンド）



技術の破壊的潜在性

デュアルユース性

サプライチェーン上の支配力

※9つの多角的評価視点

漠然とした『AI』ではなく
➡『AI向け高性能半導体の材料』

漠然とした『量子』ではなく
➡『量子コンピューターを
正常稼働させる冷却技術』

Gemini Notebook

AIとHuman Intelligenceの融合：5段階・15項目の評価プロセス

ホライズンスキャニングと脅威シナリオ想定



政治・技術など7観点から5〜10年後のボトルネックを特定

注目技術と競争優位性評価



AI解析とエキスパートヒアリングを結合。機微な製造ノウハウや軍用可能性を評価

国家戦略への実装



OCA（自国保有・他国連携・他国からの獲得）への判定

インサイト：AIは分析手段（OSINT）であると同時に、サイバー攻撃特化型AIなどの『優位性を評価すべき最重要の脅威対象』という二面性を持つ。

Gemini Notebook

The OCA Framework：日本の立ち位置に基づく3つの戦略オプション

日本の競争優位性（低➡中➡高） ＼ 技術の重要度（低➡中➡高）			
	Access （他国からの獲得） ライセンス契約や市場からの調達	**Collaborate** （他国連携） 同志国との共同研究・標準化	**Own** （自国保有・主導） 自国単独での確保・投資、囲い込み
	Access （他国からの獲得） ライセンス契約や市場からの調達	**Collaborate** （他国連携） 同志国との共同研究・標準化	**Collaborate** （他国連携） 同志国との共同研究・標準化
	Access （他国からの獲得） ライセンス契約や市場からの調達	**Access** （他国からの獲得） ライセンス契約や市場からの調達	**Collaborate** （他国連携） 同志国との共同研究・標準化

技術分野の特性に応じ、「開放（オープン）」と「保護（クローズ）」の境界を精緻に判断し、投資戦略を動的に進化させる。

Gemini Notebook

地政学的オーバーライド：非同盟国リスクによる戦略の強制補正



- **原則（経済合理性）：**
  日本の優位性が低い技術は「Access」が基本。
- **例外（安全保障）：**
  非同盟・非同志国が支配的な領域でのAccess依存は、供給途絶や技術的従属の致命的リスク。
- **アクション：**経済合理性を上書き（オーバーライド）し、同志国との協働（Collaborate）へと戦略を強制補正する。

Gemini Notebook

インテリジェンスの二頭体制：政府全体のガバナンス・エコシステム

内閣府（科技推進事務局）

内閣官房（国家安全保障局: NSS）

ICETS
（重要技術戦略研究所）

2026年改正推進法に基づく
並存と将来の一本化

RIETI
総合シンクタンク

大学・研究機関連携

業種横断・官民協議会連携

将来的な「一本化」を見据えつつ、まずは各々の強みを活かして別組織として同時並行で立ち上げる現実的アプローチ。

Gemini Notebook

棲み分けと補完関係：ICETS vs RIETI総合シンクタンク

	ICETS	RIETI総合シンクタンク
対象領域	科学技術への深い特化（AI・量子など）	業種横断的なサプライチェーン・ インフラ相互依存
時間軸	中長期的（5〜10年後の予兆分析）	即応的（政府要請に基づくシミュレーション）
データ・手法	AI大規模データ横断解析・ ホライズンスキャニング	法定「官民協議会」を通じた 機微情報共有・シナリオ作成
人材育成機能	連携大学院等を通じた 専門人材自体の育成（OJT）	（政策実行支援中心）

結論：「技術の予兆（ICETS）」が「サプライチェーンの防衛（RIETI）」へと接続されるエコシステムの形成。

Gemini Notebook

Human Capital & Global Network：次世代シンクタンク人材の創出



海外研修プログラム

米国トップシンクタンクへ人材を派遣し、現地メンター指導の下で重要技術政策の実務を習得。

実践型OJT

データサイエンス、先端技術、地政学の知見を併せ持つ人材を、学位プログラムや教育カリキュラムの共同開発を通じて育成。

Gemini Notebook

The 4 Strategic Challenges：本格稼働と将来統合に向けた試金石



1. AI精度の検証と知見統合

未検証のプレプリントやノイズを除去するため、
既存公的機関（JST, NISTEP等）の定量分析・
現場目利きとAIを有機的に補完させる。



2. 秘密保全と情報公開

民間法人格でのセキュリティ・クリアランス徹底と、
戦略的な情報公開ポリシーの厳格な運用。



3. 組織拡張とキャリアパス

初期10人体制からの拡充。
国際水準の処遇と、産学官を往来する「回転ドア」
を魅力的なキャリアとして実装する。



4. 縦割り回避と将来の「一本化」

RIETI側との調査重複を避け、
ICETSの上流予兆をRIETIのサプライチェーン評価
へ円滑に接続する制度設計。

Gemini Notebook

結論：日本の技術的独立を支える「国家の脳」へ



ICETSは、単なる事後的な動向調査機関ではない。AIの眼で『予兆』を捉え、
専門家の知で『脅威』を評価し、地政学の視座で『戦略』を補正する。
これは、激動する世界において日本の科学技術投資と経済安全保障を
動的に進化させ続ける、国家の新たなブレインである。

Gemini Notebook